

若手の会だより

～地方支部での「学振セミナー」開催～

石坂優人¹, 安部秀哉²

¹北海道大学大学院生命科学院

²はこだて未来大学大学院システム情報科学

はじめに

生物物理若手の会は、「日本生物物理学会後援の下、生命科学研究における異分野の研究者同士の相互理解、交流、議論を深め、深い専門と多様な視点を持つ研究者を養成し、生命科学研究の発展に寄与すること」を目的とした若手研究者の集まりです。2019年7月15日現在、生物物理若手の会は北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、九州支部の6支部36名から構成されています¹⁾。我々が所属している北海道支部の構成員は、2018年4月当初は私のみでした。しかしながら、様々な広報活動の甲斐もあり、現在は合計4名の支部員がおります。

さらに、日本生物物理学会北海道支部とも協力して、毎年3月に開催している例会では、多くの若手が活躍できる場を設けております。今年は学部生を含む10名の学生が質疑応答を含めて14分間の口頭発表を行い、活発な意見交換を行いました。しかしながら、北海道のような小規模な地方支部では、以下のような課題も見られたように感じます。

- ・セミナーを企画しても参加者が集まらないため、継続的なセミナーの開催が難しい
- ・参加者に魅力を感じてもらえるようなセミナーを開催するために、運営サイドの人手が足りない
- ・若手の会の活動規模が狭くなっていく結果、日本生物物理学会に所属する学生でさえ、若手の会の存在を知らないという状況が発生している

そこで今回は、支部員が少ない状況でもセミナーを運営したり、若手の会の広報に繋がったりする取り

組みを紹介させていただきます。本稿が今後の北海道支部だけでなく、他の地方支部にも参考になれば幸いです。

合同開催・共催・Skypeを活用したセミナー規模の拡大

日本学術振興会特別研究員(学振DC1, 学振DC2)の採用を目指す学生に向けて、申請書を書くコツなどの情報を共有する「学振セミナー」は、北海道支部で最も人気が高いセミナーです。学振セミナー参加者の3割以上は学部生であるため、本セミナーは博士課程進学という選択肢を広げることにも繋がっています。今年は幸運なことに、「生化学若い研究者の会北海道支部」と合同で開催することができました。これは関東支部では4若手(脳科学・生化学・分子科学・生物物理)が合同で学振セミナーを開催したことにより、参加者の増加・異分野交流の推進・若手の会の知名度向上などに繋がっている事例を参考にしたためです²⁾。

また、経験談に基づいて豊富なアドバイスができる講師を探すために、敢えて生物物理や生化学に限らず、筆者が所属する博士課程教育リーディングプログラム「北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(以下ALP)」から共催という形でお力添えをいただきました。最終的には、以下の3名の講師をお招きすることができました(所属は発表当時)。

- ・堤拓朗さん(総合化学院博士1年, 学振DC1)
採用分野: 化学 / 基礎化学 / 物理化学
- ・文野優華さん(生命科学院博士1年, 学振DC1)
採用分野: 化学 / 複合化学 / 合成化学
- ・福田一貴さん(理学院博士2年, 学振DC2)
採用分野: 数物系科学 / 数学 / 数学解析

生物物理学は非常に幅広い学問ですが、主に理論系(シミュレーション・統計力学・複雑系など)と実験系(構造生物学・細胞生物学・分光学など)に大別できると私は感じています。そこで、理論と実験のどちらを専門にした人でも参考になるように配慮して講演者を探しました。また、研究業績に論文がなかった人、学振の採用面接を経験した人、修士から大学院編入を経験した人など、参加者の多様なニーズに応えられるようにもしました。

さらに、北海道大学構内で開催した学振セミナーを、はこだて未来大学にSkypeで同時中継しました。この試みは、学振セミナーの広報ポスターを支部員の安部君に作成してもらった恩返しの意味だけでなく、

E-mail: ishizaka@castor.sci.hokudai.ac.jp (石坂)

E-mail: g2119003@fun.ac.jp (安部)

近年継続的に「生物物理若手の会夏の学校」に参加してくれる人がいるはこだて未来大学にも、若手の会の存在を知ってもらうという狙いもありました。

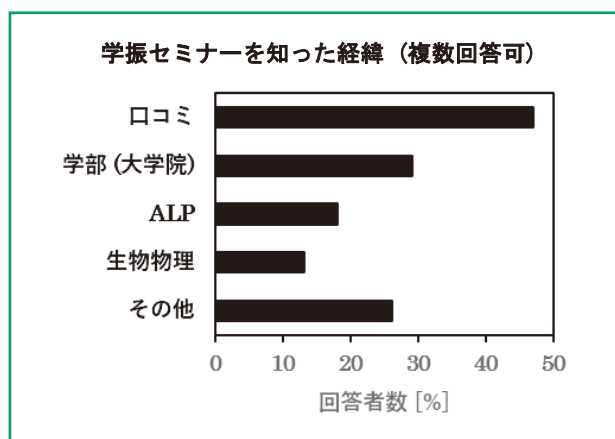
セミナーの広報活動

講師の方々をお招きする大型セミナーを開く場合、企画の次に重要なことは広報だと私は考えています。なぜならどんなに有益なセミナーを準備しても、対象者にその情報が届かなければ参加者は増えず、企画は失敗してしまうからです。実際2017年11月に、興味を持った研究や最近勉強しているテーマを持ち寄って語り合うセミナーを企画したことがありました。しかし、参加者は一人も集まらずに企画が中止になってしまいました。

当時の反省を活かし、今回の学振セミナーでは広報活動を徹底しました。特に、共催のALPからは本学の提携5大学院（生命科学院・総合化学院・環境科学院・理学院・工学院）の学生全員に学振セミナーのお知らせが届くように手はずを整えていただきました。その他、以下のような媒体で広報をしました。

- ・生物物理若手の会北海道支部のメーリングリスト
- ・生物物理若手の会北海道支部の Twitter
- ・生化学若手の会のメーリングリスト
- ・本学リーディングプログラムのメーリングリスト
- ・大学構内の掲示板 など

なお、セミナー後に参加者38名（大学院生26名、学部生12名）にアンケートを取ったところ、最も効果的だった広報媒体は「ロコミ」でした（下図）。さらに、セミナー前の期待値と、参加後の満足度をそれぞれ5段階で評価してもらいました。その結果、97%の参加者が「期待していた以上に満足できた」と回答して下さり、大成功を取ることができました。



今後の課題

関東支部などでは学振セミナーが毎年開催されていますが、北海道支部では過去5年間で3度しか開催できていません（うち1回は生化学若い研究者の会主催）。私は昨年若手の会だよりで、地方の大学と都市部の大学とで情報を得られる機会に差があることを述べました³⁾。そこで今後は、北海道でも若手の会主催の学振セミナーを毎年開催できる体制を確立しなければならないと考えております。そして、継続的に若手の会の存在感を高めることにより、学会全体を盛り上げていきたいと思っております。

まとめ

若手の会の地方支部は支部員が少ないため、活動の幅が狭くなりがちです。しかし、学振セミナーのような多くの需要が見込めるセミナーであれば、他の若手の会や大学と連携することで、比較的大規模な形式で開催できる可能性があると言えそうです。

謝辞

本セミナーのために多忙な日々の中間に発表を準備し、経験談や実際の申請書などを交えてご講演を下さった、堤拓朗さん、文野優華さん、福田一貴さんに心より御礼申し上げます。

合同開催を快諾して下さい下さった「生化学若い研究者の会北海道支部」の温田晃弘さんには、2017年に企画・発表をされた経験を基に、数々のご協力をいただきました。共催を申し出て下さった「北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム」事務局の福田クミさんには講師3名の斡旋の他、提携5大学院などへの広報依頼などに際して、多大なご支援を賜りました。北海道大学大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」の齊藤健先生には、同プログラム内での広報に際して、お世話になりました。

また、本セミナーのみならず、北海道支部の支部員募集に関わる諸活動に関してご尽力下さった、本学会に属する道内のPIの先生方には、いつもお世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。

文献

- 1) 『生物物理若手の会』 <http://bpwakate.net/wakate.html>
- 2) 工藤 恒 (2018) 生物物理 **58**, 173-174. DOI: 10.2142/biophys.58.173.
- 3) 石坂優人 (2018) 生物物理 **58**, 279-280. DOI: 10.2142/biophys.58.279.